

平成30年度第9回政策会議概要

- 1 開催日時：平成30年10月18日（木）9:00～10:15
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり
（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

議題1 ワーク・ライフ・マネジメントについて

●畑中課長【行財政改革推進課】（資料1に基づき説明）

上半期時点の年間見込みの速報値を共有する。時間外については部局の目標を積み上げた時間を上回るが昨年度実績より改善する見込みである。また、超長時間勤務者と年休取得については目標を達成する見込みである。

部局間のばらつきもあるので、年間目標に向けて積極的な改善取組による適切なマネジメントをお願いしたい。

（質疑等なし）

議題2 「県民の声を受けて」公表分の概要について

●西城戦略企画部長（資料2に基づき説明）

9月18日及び10月1日付けで公表した案件について、県民の声の件数は32件で、うち2件は複数所属で対応しており、県の対応件数は35件となっている。

職員に関するものとして、対応についての意見、苦情が15番と26番、服装についてが18番にあるが、今回は10番で対応へのお礼もいただいている。

消費生活センターに訪問販売のトラブルについて相談したところ、1か月にわたり丁寧に対応いただいて問題の解決に至ったとのお礼の声であったことを紹介させていただく。

また、県民の声を受けて実施した案件で業務の改善等へ反映したのものとして、県有施設の管理についての提案、苦情が16番と21番、広聴広報に関するもので24番がある。

今後も引き続き、各部局におかれて、前回会議で指摘を受けた点なども含め、よく確認いただいたうえで、対応していただきたい。

（質疑等なし）

議題3 政策創造員による調査・研究活動の中間報告について

●中野課長【企画課】（資料3-1～5に基づき説明）

職員の政策形成能力の向上を目的として、政策創造員 20 名が 4 つのワーキンググループ (WG) に分かれて、新たな時代を展望した、未来の三重県のめざすべき姿の構想とその実現に向けた新たな政策の方向性について調査・研究に取り組んでいる。本日の中間報告で、幹部職員の皆さんからご意見・ご指摘をいただき、政策創造員の今後の調査・研究活動の一層の充実、メンバーの能力向上などにつなげていきたいと考えている。今後の予定としては、本日いただいたご意見等をふまえ、来年 2 月に最終報告書を取りまとめ、報告させていただく。

(WG 1 から WG 4 までの各グループ代表から報告)

☆福井医療保健部長

WG 1 の報告に関して、ソーシャルキャピタルの活用は、「三重県とこわか県民健康会議 (仮称)」もそういう発想でやっている。健康寿命の延伸と企業による健康経営という考え方は、これから大事になる。高齢者になってからというより、居場所づくりとか、社会参画、就業促進というのは、もう少し若い、企業に勤めている段階にも焦点を当てた幅広い取組が必要になる。

WG 4 に関しては、高齢者人口が増えていく中で、介護ロボットのニーズはますます高まっている状況にある。報告を見ると、施設での介護を中心とした研究に見えるが、介護の負担軽減を研究するにあたっては、在宅での介護の視点も持ち、家族の負担軽減も検討してほしい。仮に施設介護に焦点を当てるならば、20 年後の現状の延長線上に予想される三重県の姿が「最先端技術が一般に普及しておらず」「社会の一部に留まっている」というのは、今はすごいスピードで伸びており、こじつけ感がある。例えば施設の介護職員の昼間の業務でいったい何が多くを占めているのかを研究すると、実は記録がすごい時間を占めているので、そこで ICT を活用するとか、いろいろな視点を持って進めてもらえればいい。まさに 2040 年というのは、団塊ジュニア世代が 65 歳になる時期にあたる。着眼点は非常にいいと思う。

☆田中子ども・福祉部長

WG 1 について、ソーシャルキャピタルに関する現場のヒアリングを広域自治体という観点で医療保健部と名張市に対して行っているが、例えば津市の泉ヶ丘団地では、自治会中心に、月 1 回、食堂を開いたり、モーニング喫茶を開いたり、飲み会を開いたりとかを 10 数年やってきた取組の実績があり、高齢者が非常にいきいきと暮らしている団地として地域づくりができています。広域自治体だからこそ、そういったところも 10 数年やってきて、どういった問題があって根付いてきたのか、役員会でどういう取組をしてきたのかをヒアリングの中に入れて、最終報告に向かってほしい。

☆井戸畑環境生活部長

WG2について、昨年、宣長サミットを開催しており、その中でもう一度、宣長に着目して、これからの社会の有り様を考えてほしいということが結論かと思うが、宣長に着目いただいているのは期待するところである。当時の江戸時代の松阪あるいは三重県というのは、商家が江戸へ出て行って経済活動をしていたが、本社機能は三重県に残したままで、三重で子どもたちを育てて奉公という形で江戸へ出すというシステムが出来ていて、江戸での経済活動が潤いを三重にもたらしていた。当時と今とずいぶん違う中で、宣長が松阪でやれたのはそういうところにあるのかと思う。そういう社会の違いがかなりあると思うが、何かその中で宣長のいた当時の社会の状況も考えながら、これからの三重を考えてもらうことに期待したい。

☆渡邊副知事

WG2で、発見した問題として三重県の取組が全国と同じで効果が出ていないと指摘しているので、ぜひそれを乗り越えるような提案を期待したい。

☆服部危機管理統括監

WG2とWG3について、10年後、20年後となると、リニアが本格的に動き出してきて、通勤とか随分と状況が変わって、何もしないと単なる通過点となる。そういった状況の変化をふまえて、シェアリングコミュニティの話にしても、何かこういうことをやっていけばということが入ってくると、ずいぶん未来から遡ったような提案になってくるかなと思う。今から言うと、混乱するかもしれないが、そういう変化をふまえてということ視点に入れてもらうと、少し違ったような提案になるかなと感じた。

☆鈴木知事

最終報告に向けては、昨日、出口（治明）さんも言っていたが、基本的にみんな、10年後、20年後も三重県に若者などが集ったり、暮らしたりしてほしいという前提のもとでのいろんな提案なので、人がそういうふうにするには面白い場所じゃないといけない。今はまだ生真面目な感じがするので、未来のことを語るわけだから、もうちょっと面白いこととか、遊びの部分があってもいいのではないかなと思う。

それから、リスクを考えすぎて、提案を止めるというよりは、こういうリスクもあるけれども、こういうメリットがあるから、やった方がいいという提案の方が、未来のことだからいいのではないかな。リスクを無視してはならないが、こういうのがあるかもしれないけれども、こういう効果が見込まれるし、こういうメリットがあるだろうから、こういうのにチャレンジしたい、という未来のことだからこそその提案があった方がいい。リスクがあっても、あきらめたり、やめてしまったりすることなくやった方がいい。頑張っていたきたい。

議題4 平成30年7月豪雨の被災地活動報告について

●福永防災対策部長

平成30年7月豪雨の被災地に派遣された専門職の活動報告を行う。

今回は、DHEAT（災害時健康危機管理支援チーム）、災害廃棄物処理スペシャリスト、農業用ため池緊急点検従事者、スクールカウンセラーの4名が、それぞれ活動内容や気づき等について報告する。

（派遣者が資料4に基づき説明）

☆廣田教育長

スクールカウンセラーとして活動した中で、今回新しい気づきはあったか。

●粟飯原臨床相談専門員【教育委員会事務局研修企画・支援課】

今回、児童・生徒の心のケアだけではなく、初めて教職員に対する指導・助言を行った。

児童・生徒の症状が災害の影響によるものかどうかによって対応に違いが出てくるので、丁寧に見るためには校内の相談体制を充実させることが必要と感じた。

また、長期的な支援を行うためには、相談記録や活動記録を作成することが重要になると考える。

☆鈴木知事

今回派遣された方々は、派遣により得られた被災地との関係を大事にし、復旧過程のいろいろな場面において力を貸してあげてほしい。また、得られた知見は重要な指摘ばかりである。県の取組に還元し、組織に組み込んでもらいたい。

各部署長においては、今回の報告を通じて災害現場のリアルな状況をつかんでもらいたい。今回の派遣者は派遣時期や場所がすべて異なり、被災地から求められる内容も異なっている。普段はそれぞれの部局の司として仕事をしているが、木を見て森を見ずにならないよう、対応にあたってほしい。